

## 留学体験（現地）レポート

情報文化学科 2年 本間祐樹

私が留学に行こうと思った理由は、中国の現状を自分の目で見てみたいと思ったからだ。日本では中国について悪いニュースばかりが報道されている。しかしこれは大学の講義と異なっておりどちらの言っていることが正しいのか自分の目で確かめてみたいと思い留学することにした。また、留学することで内向的な自分の性格を少しでも変えたいという思いもあった。

中国に着いて最初に感じたのは言葉の壁だった。中国に着くと、当たり前のことだが周りは中国人ばかりで聞こえてくるのも中国語ばかりだった。聞き取ることがまったくできず、聞き取れるのは、你好や再见といった簡単なあいさつ言葉だけだった。レベルごとに分けるためクラス分けテストが行われた。クラス分けテストの際も、聞き取り問題はまったく聞きとることができなかった。口述試験も行われたが、簡単な言葉しか聞き取ることができないので、自分の名前と出身国しか答えることができなかった。こんな状態で授業についていけるのかとても不安だったが、クラスメートも自分と同じくらいのレベルなので大丈夫だろうと思っていた。数日後授業が始まった。クラスメートには、韓国・インドネシア・フランス・ロシアなどさまざまな国籍・人種・宗教の人がいた。授業はすべて中国語で行われたため先生の言っていることが聞き取ることができなかった。しかしクラスメートは先生の言っていることを理解し、分からない部分を先生に質問するなど積極的に授業に取り組んでいた。また、中国語はできなくとも皆英語を話すことができるので英語で先生に質問したりクラスメートと意思の疎通をはかっていた。私は両方ともできないので、クラスメートと自分の語学力に差を感じ情けなくなり、授業をうけたくないと思うこともあった。しかし、根気強く授業に出ていると、だんだん聞き取れるようになり、それに比例して授業がだんだん楽しくなっていった。これは、クラスメートや先生の優しさのおかげであると思う。皆は、私が問題を間違えたり答えられなかったとしても決して馬鹿にすることなくあたたかい雰囲気を受け止めてくれた。先生方は、宿題で多くの人が間違えている問題は授業中にわかりやすく解説してくれた。北京師範大学は、教員と学生の距離が近く安心して学習に取り組むことができた。